

# 中央大學圖書館所藏漢籍目錄 凡例

- 1 この目録は中央大學圖書館に所藏されている漢籍目録である。また附録として準漢籍、佛書、韓書を収めた。総點數は一〇三點。

その内譯は、漢籍の總點數六八五點で、經部は一四二點、史部は二四六點、子部は一七六點、集部は一一五點、叢書部六點。そして準漢籍は一〇二點、佛書は二五八點、韓書は一五八點である。
- 2 中國人が古典語で著述・編集した書籍を漢籍とした。この目録には辛亥革命頃までに刊行され裝訂が綫裝になっている書物を中心に収録した。
- 3 この漢籍に日本人が訓點を加えたり、頭注を附けたりして、日本で翻刻した書籍、つまり和刻本は当然ながら漢籍とした。
- 4 日本人による漢籍の注釋・翻譯などはもとより國書であるが、利用者の便宜、藏書構成から準漢籍(漢籍に準ずるもの)として、この目録では漢籍と合わせて収録し、漢籍篇の附録とした。
- 5 舊學に屬する漢籍は四部分類法(主に「京都大學人文科學研究所漢籍分類目録」を参照)に依據した。和刻本については、長澤規矩也氏の「和刻本漢籍分類目録」を参照し、刊・印・修の區別にも意を拂った。佛書及び韓書は請求記號順に排列した。
- 6 同類同屬の排列順は、ほぼ編著者の時代順によった。
- 7 叢刻・叢書に屬する書物については、書名のみを列舉した。索引には叢刻・叢書に屬する書物の書名を分出して採録することをしなかつた。
- 8 目録本文の著録についてはおおよそ次のような規則に従って表記した。
- 9 目録本文については、書名・卷數・編著者・出版事項・外寸・印記・版式、欄外に請求記號・冊數・舊文庫舊藏者名略稱の順で表示した。
- 10 書名は本文卷首(本文の始まる所)の首行の書名を正式書名とした。叢書、叢刻の書名は、目録書名、封面などを参照して決め

た。闕卷のある場合は欠けている巻を表示した。

ハ 編著者名は、始めに括弧の中に王朝名を示し、それに續けて本姓、諱を示し、名前の後に撰(著作)、輯(編集)、注(注釋)、校(校訂)、訓點、首書 など著述者の役割を示した。本名が不明の時は闕名とした。

二 出版事項は、いつ・どこの誰が・どのような印刷形態で出版したかを示した。印刷形態としては、刻本(木版印刷)、木活字印本、銅版印本、石印本、などの表記で示した。書寫したテキストは鈔本の表示で統一し、書寫狀況を觀察して細かい區別や表示をしなかった。現物を精査することや参考書を参照して出来るだけ刊・印・修を區別するように努力した。

ホ 冊数は現状のままの数で示した。

冊數に續けて舊文庫名・舊藏者名の略稱を附載した。

岡野……岡野文庫 如是閑……長谷川如是閑舊藏書

桑田……桑田文庫 御橋……御橋惠言舊藏書

末松……末松文庫 山田……山田喜之助舊藏書

花井……花井文庫 渡部……渡部學先生寄贈朝鮮の民間流布初學入門書

春木……春木文庫 同窓會……朝鮮同窓會寄贈書

増島……増島文庫

村上……村上文庫

泉二……泉二文庫

請求記號は圖書館で用いている記號を踏襲し出納の便を圖った。

へ 分類については、漢籍は四部分類(經部・史部・子部・集部)を採用し、叢書部を加えた。各部の點數を勘案して、類以下の細かい分類はしなかった。

ト 索引については、冠稱を省いた書名を基に、五十音順に排列した。叢書の子目は索引に載せなかった。